

藤沼神社の話

《下江花》

藤沼神社には、大蛇が祀られている。神社のある山の上に沼があつて、藤の花が咲いているという。藤沼様の話はこういうわけだ。

新潟と山形と福島の間、飯豊山つう山があるんですよ。でっかい山がね。いつ見たつて、三県こつちは山形、こつちは福島、こつちは新潟ね。ここの飯豊山つう山の奥地に、じいん様というものがいたそう。じいん様ちゃ犬だつたんだね。

鉄砲打に飼われていた犬で、「じいんじいん にしはやがてでつかくなつと、この娘くれんだから子守しろ」といつて、この犬に子守させていた。そしたら娘が年頃になつた。「おつかあはこういつたべ、おれに育てあげたら年頃になつたらくれるつて」と言つて、その犬は人間になつた。

そして娘に、「いっしょに行くか、ふじ」と言つたら、その娘は、「そういう約束だから、いっしょになる」といつて、山奥さ引込んで、兎獲つたり、むじな獲つたりして暮していたんだつて。そうしたら宇都宮の日光の近くの村で、毎年祭りに鎮守様に人年貢あげねえと、たたりがあつて困つていた。

村に六部が来て、「人年貢あげねえくてもいいようにするには、飯豊山の下に住んでい。じいん太郎を頼んでくればいいんだ。それを頼んでこ 大きなぼちだから」と教えた。

村の人たちは、飯豊山の岩屋さ行つて頼んだ。「こういうわけで、じいん様を頼みに来た。俺方の鎮守様が、毎年毎年人年貢をこれまで十年も上げて、こんだまた娘を上げねばなんねいんだ」。